

年度	科目名	課題領域	単位数		
2023年度	外国につながる児童生徒の教育Ⅲ	学校づくり 地域づくり	1		
授業の目的	1. 保護者や地域の関係者と連携・協力して、よりよい支援、教育のための学校体制づくりを考える。 2. 異なる立場の人々と協働しながら、学習環境としての地域づくりを考える。				
学修目標 (目標とする資質・能力)	・地域の支援活動団体等、学校外の様々な関係者と連携し、支援体制を構築することができる。 《つなぐ力：ナ*》 ・学校が拠点となり、地域の様々な関係者と連携して、子どもの学習環境を豊かにすることができる。 《つなぐ力：ニ*》				
各回の授業内容					
回	月日	時間帯	授業テーマ	内容概略	担当教員／ゲスト講師
1	12月23日	午前1 (90分)	外部機関・地域との共通理解や連携を深めるために(1)	外国につながる児童生徒および保護者への支援の充実に向けた外部機関・地域との連携について学ぶ。 ▷C, L	藤本典子（教育学部客員教授）・鹿嶋恵（大学院教育学研究科 特任教授）
2	12月23日	午前2 (90分)	学校経営における効果的なリーダーシップの発揮について	外国につながる児童生徒やその保護者を抱える学校において、管理職と教職員らが発揮すべきリーダーシップ・フォローアップの理論と方法について知識を深める。 ▷C, L, N	波多江俊介（大学院教育学研究科 准教授）
3	12月23日	午後1 (90分)	小学校での実践例(1) ～日本語教室と担任との連携を密にした学校づくり～	熊本市内の日本語指導センター校での取り組みから、校内の指導体制や、支援の実際等を学ぶ。 ▷A, C, L	寺前研太郎氏（熊本市立黒髪小学校 校長）
4	12月23日	午後2 (90分)	小学校での実践例(2) ～地域との連携を土台とした実践～	熊本県の拠点校における、外国につながる児童の受入れ実践例から、日本語指導の位置づけや地域との連携のあり方等を学ぶ。 ▷B, C, L	梶原圭一氏（菊陽町立武蔵ヶ丘小学校 校長）
5	12月24日	午前1 (90分)	日本語指導の充実に向けて	熊本市教育委員会の日本語指導に対する施策や、大学との連携による児童生徒の支援策等について、知識や理解を深める。 ▷A, B, C	浅井弘美氏（熊本市教育委員会指導課 日本語指導担当 主任主事）

6	12月24日	午前2 (90分)	外部機関・地域との共通理解 や連携を深めるために(2)	社会教育の立場から、外国につな がる児童生徒や保護者等の学習や 支援を地域社会でどのように創出 していくべきか、鹿児島の事例を元 に考える。 ▷A, L	山下直子氏 (鹿児島大学 非常勤 講師)
7	12月24日	午後1 (90分)	地域の支援団体による日本語 指導や支援の実践例	熊本県からの委託も受けて、県内 全域で外国つながる児童生徒への 日本語指導や学習支援等を幅広く 展開するNPOの活動を学び、学校 環境づくりや地域社会づくりを考 える。 ▷A, E, K, L	竹村朋子氏 (NPO法人 外国か ら来た子ども支援 ネットくまもと代 表)
8	12月24日	午後2 (90分)	共に育つ ～子供たちの社会参加とキャ リア教育～	・これまでに日本語指導を受けて きた児童生徒の作文を元に、これ からの一人一人の取り組みの意義 を確認する。 ・学習の振り返りとまとめを行 う。 ▷E, L, N	藤本典子・鹿嶋恵
<b>履修条件</b>			今年度は、教員免許の有無にかかわらず、どなたでも受講できます。		
<b>評価の方法</b>			授業への参加、事後アンケート		

\* ア～マの記号は「豆の木モデル」において、外国人児童生徒等教育に携わる教師に「求められる具体的な力」を、また▷A～Nの記号は同じく教員の「養成・研修の内容構成」に該当する。詳しくは、下記文献のpp.5-10を参照。

公益社団法人日本語教育学会（2020）『外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修のための「モデルプログラム」ガイドブック』（<https://mo-mo-pro.com/report>）